

令和7年度

上勝中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に粘り強く学習に取り組む生徒の育成
- 愛のある学校づくりの推進
- 教育力の向上と持続可能な学校づくり

校長

大井 育代

学力向上推進員

学力向上推進員:富浦育
教務:米澤 吉郎 1年主任:久原由紀子
2年主任:中山久美 3年主任:曾我部裕司

【小中連携における共通の取組】

小中9年間を見通し、指導の一貫性をもたせた教育活動

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全般的に素直で前向きで、何事にも真面目に取り組むことができる。 ●実力テストなどの出題範囲が広いテストでは、単元末テスト(令和4年度から実施)と比べて正答率が下がる。 ●単元末テスト後のレビュータイムに参加する生徒が固定化されており、生徒のモチベーションの低下が見られる。	・授業に主体的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができる。 ・知識・技能の定着を図るため、家庭学習及びテスト前の学習に計画的に取り組むことができる。	・単元末テスト前に対策プリントを配布したり、提出物を丁寧に確認するなど単元末テストのより効果的な実施方法について考え、すべての生徒の学力向上を図ることに努める。 ・実力テスト前に部活動休止期間を設定し、計画的に学習に取り組む環境をつくる。そのためにも担任や各教科担任が「家庭学習の手引き」を用いて家庭学習の仕方等を指導する時間を設ける。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中に進んで発表し、課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●思考力や長文での記述を必要とする問題では、他の問題と比べて正答率が下がる。	・自分の考えを、根拠や理由を明確にしながら説明したり書いたりして伝えることができる。 ・各授業における課題に対する話し合い活動を通して、必要な情報を読み取り、比較したり関連付けて考えたりすることができる。	・生徒がより意欲的に取り組めるよう、課題設定の工夫やワークシートの工夫、発問の工夫に努める。 ・授業づくりや学習指導方法、ICTの活用についてなどの校内研修の活性化を図り、教職員の技術力の向上に努める。 ・学校生活の中で、各学年の生徒が大人数の前で発表できる場面を設定する。 ・新聞を活用した取組や作品の応募を通して、表現する機会を増やす。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ノーチャイム着席、朝の自習、エクストラスタディーズなど、基本的な学習規律を守って学習に取り組むことができる。 ●課題に対して自らの学習を調整し、粘り強く取り組もうとすることが難しい。 ●生活の乱れが目立つなど、学習サイクルの確立ができていない生徒もいる。	・各教科の学習に主体的・対話的に取り組み、深い学びを実現することができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実施することができる。	・「授業のめあて」「学習の流れ」「学習のまとめ」を掲示し、生徒に振り返る習慣をつけさせる。 ・学校力向上コラボレーション事業を活用し、授業づくりについての研修を進める。 ・家庭との連携を図りながら生活リズムの確立や時間の使い方、自主学習の仕方等の指導を行う。また、十分な自主学習の時間をもうけるために自主学習の内容を各教科の提出物で代用可とし、生徒の負担軽減を図る。			